

# 学齢期児童を対象とした情報提供書・チェックリストについて

## 1 様式導入の目的

- ① 受診する児童の学校生活に関する情報を把握する。
- ② 学校の見立てや支援、学校が相談したい内容を知る。
- ③ 学校と保護者が児童の状態や受診について整理・統一していただく機会となる。
- ④ 児童の支援に必要な教育と医療の連携を図る。

## 2 現状と導入のメリットについて

### 《現状》

- ・ 学齢児は多くの時間を学校で過ごしているにも関わらず、診療の際に、保護者から学校での児童の情報を詳しく伺うことは難しい。
- ・ 学校の見立てや支援、相談したい内容について保護者より聞き取り出来ないことが多い。
- ・ 診療時間は限られており、保護者から丁寧な聞き取りを確保するのは難しい。
- ・ 現在も初診時には、保護者を介して、学校からの情報提供を依頼しているところであり、依頼を受けた学校より情報提供の書式についての問い合わせを受けることがある。

### 《メリット》

- ・ 児童の学校での様子、困り事を学校の先生がどのように見立て、どのように支援しているかといった発達障害の診療にとって必要な情報を得ることができる。
- ・ さらに診療情報をフィードバックすることで、学校での困りごとや支援に必要な医療の見立てを少しでも早く伝えることにつながる。
- ・ 書式の導入が、学校と医療の連携のきっかけとなり、必要な連携の継続が期待できる。
- ・ 決められた書式を活用することにより、学校より情報提供して頂きやすくなり、効率的に児童に関する情報を把握することにより、充実した診療を行うことができる。

## 3 各様式にかかる補足

### 《情報提供書》

- ・ 受診に際し、医療に相談されたい内容を、学校の先生方と保護者の方が話し合って記載いただく。(保護者の方と学校との間で共有されていない内容、認識が不一致な内容に基づく診療は難しいことから、十分、保護者の方とご相談いただいたうえで情報提供していただきたい。受診に対する学校と保護者の見解についても、整理・統一をお願いしたい。)

### 《学習・行動・対人関係等に関するチェックリスト》

- ・ 学校での様子をよく観察されている先生方にチェック項目に沿ってご記入いただくことで、受診されたお子さんの学校での様子や困りごと、学校の先生方がどのように見立て、どのように支援されているかなどの情報を効率的・定量的に把握することができると考えている。
- ・ チェックリストは保護者の方にもご記入の上、ご提出いただき、ご自宅での様子についても情報提供いただく運用を考えている。
- ・ 過ごす場所の違いにより学校と保護者で児童に対する評価が異なる点や、チェックリストによって診断がつくものではないことを学校・保護者に理解していただく必要がある。